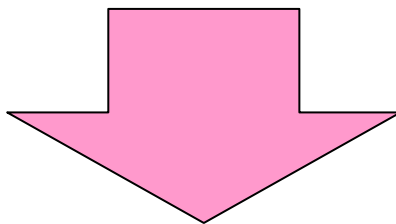


4.事業の目的

- 石炭火力発電所の新設に伴い、新規に発生する石炭輸入量を取り扱う係留施設の新設
- 燃料・原料を輸送する船舶が近年、大型化傾向していることに対応するため、取扱施設の大水深化



『新南陽地区多目的国際ターミナル』の整備

●事業の構成施設と進捗状況

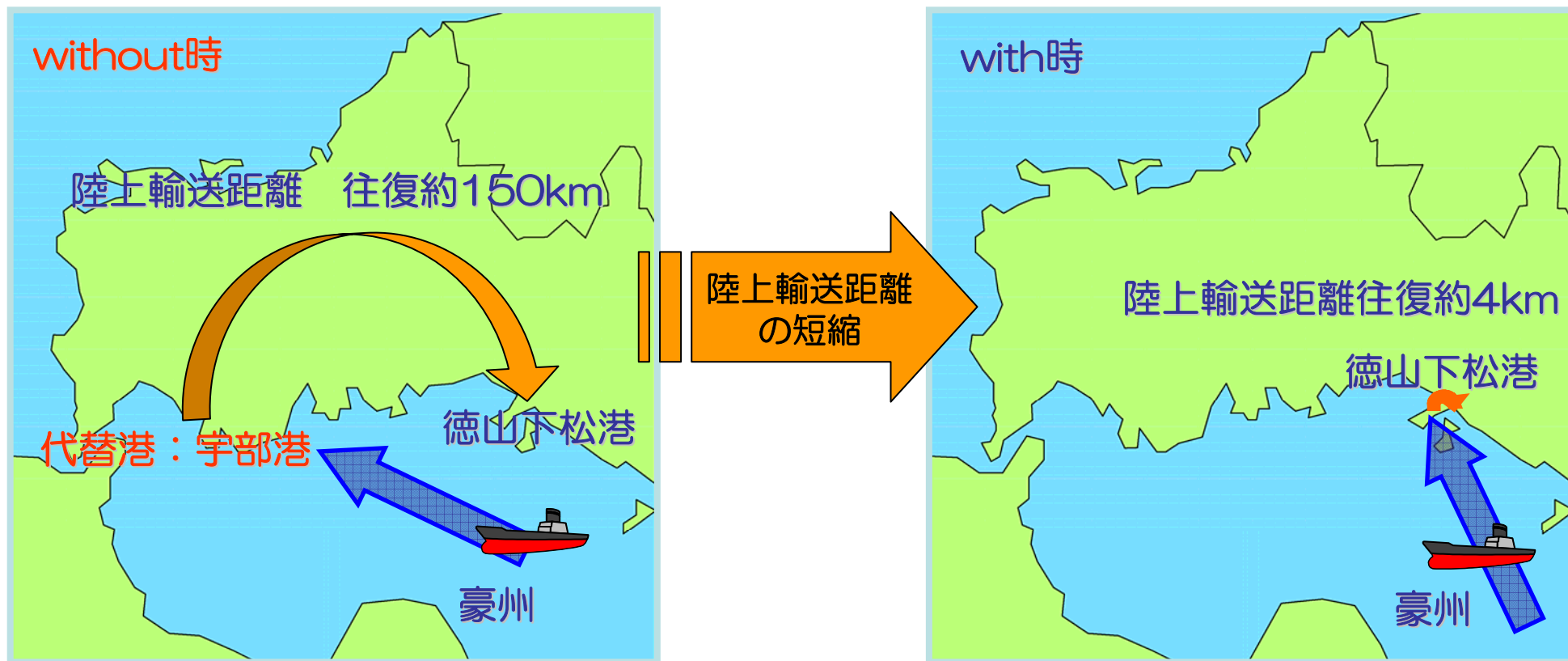
岸壁 (-12m) 取扱貨物 取扱貨物量 (千トン)	
石炭	1,800
鉄鋼 (フェロクロム)	160
合計	1,960



6.事業の効果

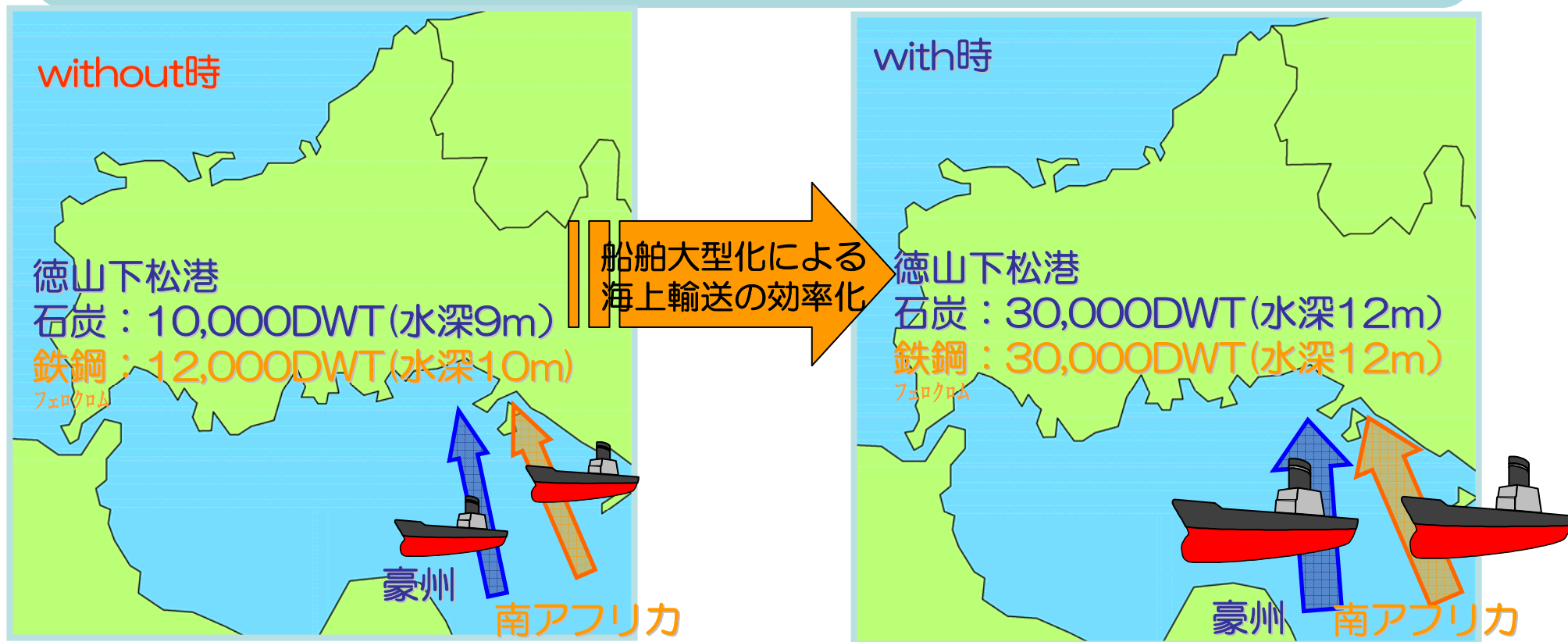
● 新規貨物（石炭）輸入に対する便益（陸上輸送費用削減便益）

新南陽地区岸壁（-12m）の整備により、徳山下松港背後企業までの陸上輸送距離が短縮され、年間約19億円の輸送費が削減される。



● 現取扱貨物（石炭・鉄鋼(フェロクロム)）に対する便益 (海上輸送費用削減便益)

新南陽地区岸壁（-12m）の整備により、大型船舶の入港が可能となり、年間28億円の海上輸送費用が削減される。



7. その他の効果

●排ガス削減効果

貨物の陸上・海上輸送の効率化によるCO₂, NO_x発生量の削減

●地域産業の安定・発展

背後圏立地企業の物流効率化・国際競争力の向上

●浚渫土砂有効活用による干潟（約29.3ha）の整備の効果

生物生息・生産機能の向上

水質浄化機能の改善

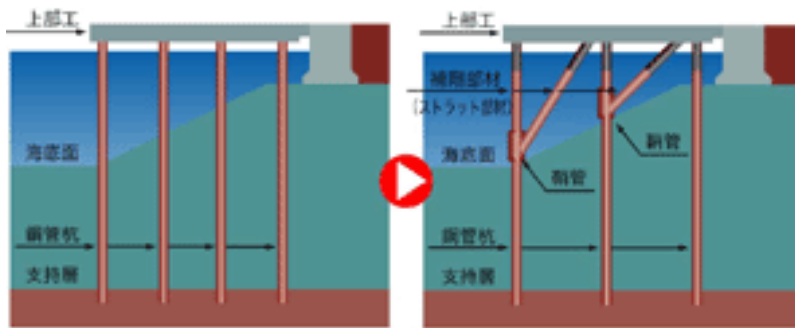
親水機能の向上



8.コスト縮減の取り組み

新技術工法を取り入れることにより、岸壁の断面をスリム化にしてコスト縮減を図った。

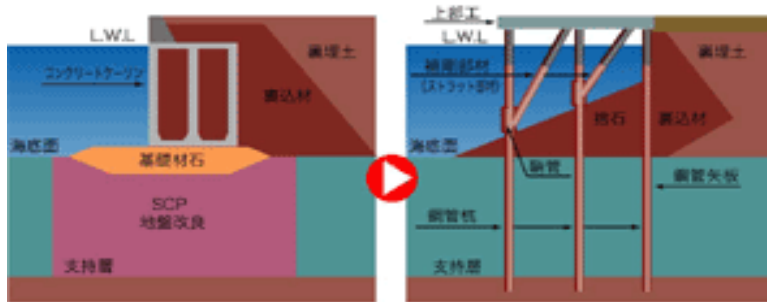
格点式ストラット工法



他工法

ストラット工法

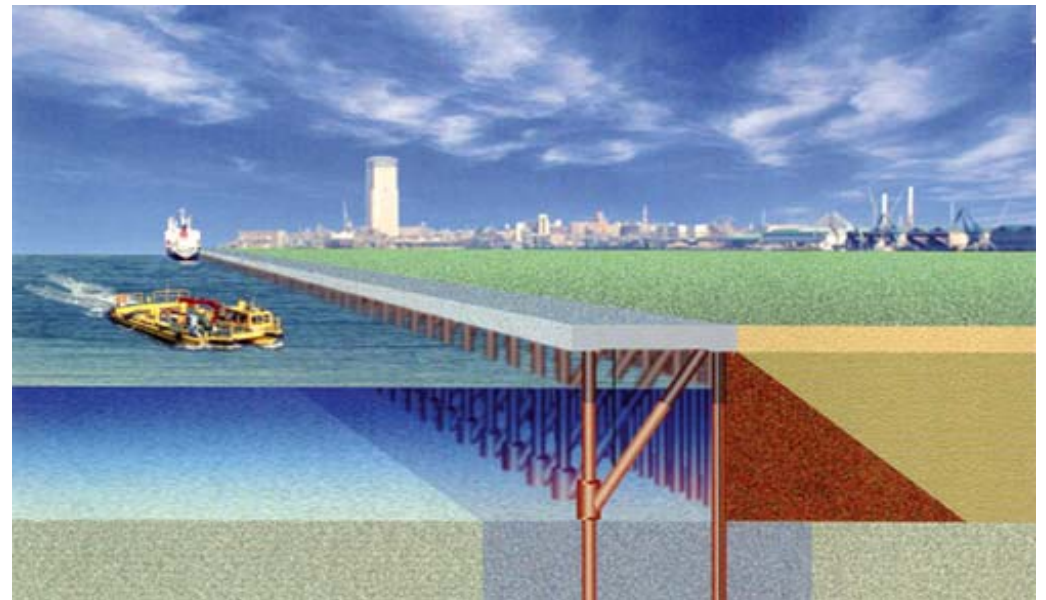
●杭本数の減少並び断面の縮小



他工法

ストラット工法

●地盤改良の省略



新南陽地区岸壁（-12m）パース図

9.費用対効果

費用対効果分析結果

	事業全体の投資効率	残事業の投資効率
総費用（C現在価値換算後）	249億円	180億円
総便益（B現在価値換算後）	671億円	398億円
純現在価値（B-C）	422億円	219億円
費用便益比（B/C）	2.7	2.2

感度分析結果

分析項目	事業全体の投資効率		残事業の投資効率	
	10%	-10%	10%	-10%
需要	3.0	2.4	2.4	2.0
建設費	2.4	2.9	2.0	2.5
建設期間	2.5	2.8	2.0	2.3

10. 今後の対応方針

事業継続

本事業は、十分な事業の投資効果確認されたため、本事業を継続することとしたい。

継続効果

本事業の継続により、陸上輸送コスト、海上輸送コストの削減が図れ、地域経済の活性化が図れる。

